

保健室の窓から①

子どもは、まるごと受け止めてくれる

大人をもとめている

田 口 孝

こんにちは。養護教諭の田口です。これから数回にわたり、保健室の窓から感じた子どものお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

毎年、四月初めに小さなけがが続く時があります。今年も「手の皮がむけた」「マメができた」と数人が保健室へ来ました。グランドのブランコの鎖をぎゅつと握って立ち乗りをしていたのだそうです。坐ってこいでいたという子も同様です。すっぽり雪に埋まって過ごす冬は、自分の体重を手のひらで支えるなんて経験はほとんどありません。荷物を持ち続ける、シャベルで雪を掘る生活も今の子どもにはありません。私は子どもたちの手を水で洗い絆創膏を貼って「冬の間には手がふわふわになったんだね。春になったからこの調

子でいっぱい遊ぼうね。丈夫な手と体になろうね」と話してあげました。

四月初め新一年生が校舎に慣れずにわずかな段差でつまづいたり階段で転ぶことがあります。また、登下校中に転んで足を擦りむく子、「集団登校で歩いて足が筋肉痛なの。湿布してくださーい」なんてのがこの時期の特徴です。幼稚園保育園は車で送迎してもらっていたけど今度は自分で歩いて通う。当たり前と思うでしょうが、一年生にとつては一大事です。わずかなけがひとつの中にも、子どもの生活や課題が見えてくる。ですから子どもををよく見る、話を丁寧に聞くというのは重要な仕事なのだと思います。

数年前に出会った六年のA子は、はしゃいでいるかと思うと急に不機嫌になったり、近づくと「寄るな！」

と言わんばかりに体を引つ込めたり、噛みつくような視線を返してくる子でした。保健室には頻繁に頭や手足が痛いやってきます。「またA子？どうしたのかな？」と思いながら、冷やしたり湿布をしてあげていました。体に触れると、全身が緊張しているせいか肩なんてパンパンに張っています。「Aちゃん、凝ってるねえ。この辺りかな？」なんて言いながらマッサージをしてあげると気持ちよさそうにしていました。

A子は低学年のころは喋り声も笑い声も大きい明るい子でした。スポーツクラブが大変そうでしたが、持ち前の負けん気の強さで乗り越えていました。困っている友達のお世話もよくしていました。ところが高学年になるにつれて少しずつ変わってきたのです。

秋の児童会フェスティバル（学級ごとに出店を作りスタンプリーをして回る行事）のことです。A子は前半の四〇分間係の仕事をして、さあ後半。お店巡りができる自由な時間帯になった時に、一人でやって来て本を読み始めました。

いつまでも動く様子がありません。私が「お店に行かないの？」と声をかけても知らんぷりしています。「おもしろい店がいっぱいあったよ」と数回誘った時、

A子は急に涙をこぼし始めたのです。泣きながら「私には、一緒に回ってくれる人がいない。みんな楽しそうに笑っていて、……うらやましい。……一緒に店を回ろう」と誘って、誰も『うん』と言わなかったら、どうしよう……』と言いました。

世界中に自分だけ一人ぼっちになった感覚。彼女の日ごろの強がりには自信のなさの現れだったのです。私は「ここにいていいんだよ」と伝えました。A子は静かに本を読み、閉会式が始まるころ体育館へ向かって行きました。

六年生の後半になると子どもはすっかり「思春期」です。体は発達成長し感情は鋭くなり、変わりやすく、傷つきやすいのに攻撃的になります。話をよく聴いて心の揺れに丁寧につきあつてあげることが必要です。

十二月は小学校でも通知表を付けるためにテストが時々あります。ある日A子には不機嫌に保健室の椅子に座り、一気に喋り始めました。

「テストで百点をとったら五百円もらえる約束なの。八十点以上で三百円。五点ごとにいくらつたつていて、だから小遣いの基本はとつても安いよ。『そんなの嫌だ！困るよ！』と言ったら『じゃ、塾に行けばいいよ』」

い』って。ムカつく！ 塾なんて行きたくない！ムカつくけど、お小遣いがないのも困るし…」。

昔からテストで満点を取るとご褒美をもらえるというのはありましたが、これほど徹底した小遣い体系は初めて出会いました。ちょうど成果主義賃金体制が導入された頃で、もしかしたらA子の父さんもそういう給与体系なのかなと感じてしまいました。「お姉ちゃんはできるのに、お前は…」と優秀な姉と比較されるのも我慢ならないようでした。私は「Aちゃんは、お金のために勉強しているんじゃないのね。ムカツときちゃったんだ。でもお小遣いもないのも困るよねえ。そういう気持ちをお母さんに伝えられるといいと思うよ」と伝えました。

出来高制のお小遣いは結局どうなったのか確認はしなかったのですが、数日後、友達とやってきて冬休みの計画を嬉しそうに話していました。

子どもの体の不調とイライラには生活と課題が見え隠れしています。子どもたちは丁寧につきあってくれて、そのままを受けとめ、一緒に助走してくれる大人を求めているのだと思います。

(たぐち こう・長岡市)

## 総理府の「ひきこもり調査」から②

小中学校時代の経験(Q11)では「我慢することが多かった」「友だちにいじめられた」「一人で遊んでいる方が楽しかった」「不登校を経験した」など学校生活が必ずしもうまくいっていない状況が見られる。しかし一方では「友達とよく話をした」「親友がいた」などの項目が高い数字を示している。

ふだん自宅をよくしていること(Q18)では「テレビを見る」「本を読む」「インターネット」「ゲーム」が圧倒的に多い。

きっかけ別(Q18)では「職場になじめなかった」「就職活動がうまくいかなかった」が上位を占め、学校生活がきっかけだとする人は少い。

不安要素(Q28)では群を抜いた回答がなく、「家族に申し訳ない」「集団に溶け込めない」「他人がどう思っているか不安」「生きるのがつらい」などさまざまな悩みを抱えていることが伺える。

現在の状態を関係機関に相談したか(Q24)では、「思わない」が66%で、「思う」「非常に思う」「少し思う」の合計は32%であった。(浩)